

## 私が選ぶHR/HM 10+1選

宗谷医師会  
わからない耳鼻咽喉科

### 上田 征吾

稚内で昨年10月より開業しているが、家族は旭川に残し、単身赴任で働いている。月曜午前に稚内入りし、金曜午後に旭川に帰宅するという具合だ。移動はもっぱら自家用車で、その道中4時間弱は好きな音楽を音量と熱唱を気兼ねすることがない貴重な時間である。中学からロック好きで、その時代に聴いていたHR（ハードロック）/HM（ヘビーメタル）を今でも聞いている。その中でも特にヘビロテしているアルバム10+1選を紹介したい。

#### AC/DC “Back in Black”

前作までのボーカル、ボン・スコットがアルコール中毒で死亡した後、元ジョーディーのブライアン・ジョンソンを迎えて1980年にリリースした大ヒットアルバム。アンガス・ヤングのギターはいつも通り縦ノリのリフが冴えまくり、ジョンソンのうなり出すような独特なハイトーン・ボーカルもいい味でている。

#### Judas Priest “Painkiller”

コテコテのHMである“Screaming for Vengeance”や“Defenders of the Faith”も好きだが、やはりJudas Priestはこのアルバムが最もお気に入り。アグレッシブでとにかく速く、重厚な楽曲は捨て曲のない充実ぶりで、気がクサクサしたときに最も聴きたいアルバムである。このアルバムによりメタルゴッドの地位はさらに確実なものとなった。

#### Iron Maiden “The Number of the Beast”

元サムソンのブルース・ディッキンソンをボーカルに迎えて制作された3作目。前任のポール・ディアノ支持派からは否定的反応も多かったが、より声量半端ないボーカリストを手に入れたことにより表現世界はさらに広がり、結果的には大成功した傑作。相変わらずスティーブ・ハリスのベースが冴え渡っている。

#### Metallica “Master of Puppets”

前作で速いばかりじゃない音楽表現を打ち出し、スラッシュ/スピード・メタルにとらわれないスタイルを今作ではさらに押し進めた。“Battery”等の速い曲はむしろ稀で、緩急の際立った複雑な展開と印象的なメロディを合体させた、独特でドラマチックなヘビー・サウンドが特徴的。

#### Guns N' Roses “Appetite for Destruction”

全世界で1,500万枚以上を売り、シーンの頂点を極めた衝撃のデビュー作であり問題作。捨て曲なしの楽曲のクオリティーもさることながら、あらゆるマイナスの感情が転じて生まれた怒涛のエネルギーが全編に漲った傑作。

#### Anthrax “Spreading the Disease”

“A. I. R.” “カング・ホー” “マッドハウス” など彼らのアンセム的なスラッシュ・メタルの佳曲を収録する傑作。名リフの宝庫であり、またスラッシュ・メタル史上の名盤と評価する人も多い。

#### Black Sabbath “Heaven and Hell”

オジー・オズボーンの脱退というバンド存続の危機に、元レインボーのロニー・ジェイムス・ディオを加入させ制作した傑作アルバム。これまで黒魔術的なイメージを追求してきた彼らが、それまでのサバスには珍しかったスピーディーな“ネオンの騎士”を1曲目に持ってくるなど、新生面を強調した仕上がりになっている。何度聴いてもロニー・ジェイムス・ディオのボーカルは反則級にすばらしい。

#### Ozzy Osbourne “Blizzard of Ozz”

そのブラック・サバスを脱退したオジー・オズボーンが元クワイエット・ライオットのギタリスト、ランディ・ローズを迎えて制作したソロ第1作。充実した楽曲群は、サバス時代ほど重々しくはないながらも十分にヘビーで様子を踏まえ、キャッチーですらある。そんな名曲たちをランディのクラシカルなギター・プレイがドラマチックに盛り上げる。

#### Van Halen “1984”

前作までに比べさらにキャッチーさが増し、バンド初のナンバー1シングル“ジャンプ”を生んで記録的なセールスとなった。個人的には、カッコいい“パナマ”を何度聴いたことか。ギター・ヒーロー、エディと、エンターティナー、デイヴの天下無敵のコンビネーションは理屈抜きでカッコいい。

#### Helloween “Keeper of the Seven Keys, Pt. 2”

ドイツ出身のHM（いわゆるジャーマンメタル）バンドがリリースした第3作。ボーカルはハイトーン・ボイスが美しいマイケル・キスク。第2作目のKeeper of the Seven Keys, Pt. 1も良いが、本作の方がキャッチーでバラエティーに富む捨て曲なしの楽曲構成で、あっという間に聴いてしまう。

#### Dizzy Mizz Lizzy “Dizzy Mizz Lizzy”

デンマークのHRバンドが1994年に放った第1作。美しいメロディアスなアルバムで全15曲（日本盤）を一気に聴ける。発表当時大学1年生で、初めて聞いたときは衝撃的だった。しかしパッとしない2枚目をリリース後、解散してしまう。